



▲会場となった「普賢寺ふれあいの駅」で特産品の販売の様子を視察



農・福・観の連携（京田辺市）

参加者の声

- 市内の福祉事業所や大学、市民の皆さんと協働し、明治時代に京田辺市で行われていた大麦栽培を復活。地元産クラフトビール生産を目指している
- 障害のある方とともに、えびいもなどを作ってJAなどに卸すほか、カフェ運営や規格外の品を活用した商品開発、学生の実習受け入れなどを通じて地域に貢献
- 「LOVE京田辺マルシェ」の開催を通じて農家と異業種との連携が生まれ、特産品開発につながっている
- マルシェに関わって自分の業界以外のことや、これまで知らなかった地元の魅力を知ることができた
- 枝豆収穫や茶摘みなどの体験ツアーを実施。畑のあぜ道を歩くなど何気ないことが感動を生んでいる



▲えびいもの収穫体験

トークを終えて…

農業と福祉、観光が連携することによって、これまで埋もれていた地域資源に新たな価値が生まれているのが素晴らしい。この地域の力を一つのモデルとして育て上げていただけるよう、われわれも引き続き支援してまいります。



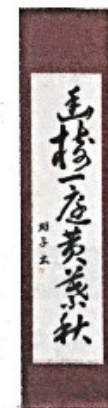
えびいもなど京田辺市の特産品を使った加工食品



▲日図デザイン博物館で開催された「京都とっておきの芸術祭」



宋 韓伊さん
『ヤツが姿をあらわしたよ!』



河岸 昭子さん
『幽樹一庭…』

トークを終えて…

皆さんの思いがストレートに伝わってくる力作ぞろいで、私も元気とエネルギーを頂きました。皆さんの活躍の場をより広げていけるよう、文化庁とも連携し、引き続き障害者芸術振興に取り組んでまいります。

